ヤマトプロテック株式会社

ビル防災設備　プラント防災設備　避難警報設備　各種消火器

本　　　社　〒108-0071 東京都港区白金台5-17-2 TEL.03-3446-7151(代)・FAX.03-3446-7160
大阪事業所　〒537-0001 大阪市東成区深江北2-1-10 TEL.06-6976-0701(代)・FAX.06-6976-0802
名古屋支社　〒461-0004 名古屋市東区葵1-1-22 KT葵ビル3F TEL.052-856-0701・FAX.052-856-0699
札幌支店　〒065-0027 札幌市東区北27条東19丁目1-1 TEL.011-780-1700・FAX.011-780-1701
仙台支店　〒984-0012 仙台市若林区六丁の目中町6-1 TEL.022-287-9531・FAX.022-287-9534
さいたま支店　〒331-0812 さいたま市北区宮原町1-68 TEL.048-652-1345・FAX.048-652-1321
横浜支店　〒241-0031 横浜市旭区今宿西町426-1 TEL.045-954-4411・FAX.045-954-4422
静岡支店　〒422-8005 静岡市駿河区池田231-1 TEL.054-263-0119・FAX.054-262-7741
広島支店　〒733-0005 広島市西区三滝町7-4 TEL.082-237-4625・FAX.082-239-3859
四国支店　〒791-1126 松山市大橋町202 TEL.089-963-5850・FAX.089-963-5877
福岡支店　〒812-0893 福岡市博多区那珂5-7-12 TEL.092-411-4224・FAX.092-411-4229
大阪工場　〒587-0042 大阪府堺市美原区木材通2-2-38 TEL.072-361-5911・FAX.072-361-6370
東京工場　〒300-1312 茨城県稲敷郡河内町長竿道前1951 TEL.0297-84-4451・FAX.0297-84-4716
中央研究所　〒300-1312 茨城県稲敷郡河内町長竿道前1951 TEL.0297-84-4711・FAX.0297-84-4712
関東物流センター　〒243-0021 神奈川県厚木市岡田3-6-35 TEL.046-226-8161・FAX.046-228-7880
リサイクルセンター　〒587-0042 大阪府堺市美原区木材通2-2-38 TEL.072-361-7518・FAX.072-361-7519

●この商品についてのお問い合わせは、ご購入の販売店または当社ナビダイヤルへ…

お客様相談窓口

0570-080-100 受付時間:平日9:00～17:00

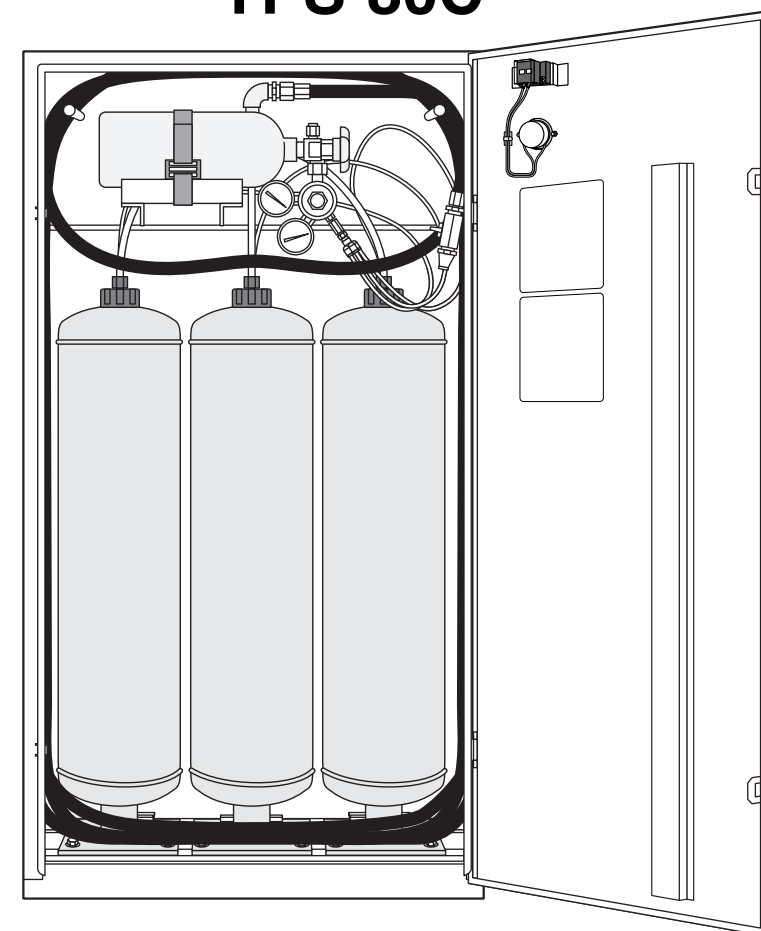
※本書に掲載した商品は改良などのため、予告なく規格・仕様変更等を行うことがありますので、ご了承ください。　1404-3

＊説明書は必ず読んでください。
＊いつでも読めるところに保管してください。

パッケージ型消火設備
取扱説明書

■対象器種■

YPS-80B
YPS-80C

ヤマトプロテック株式会社

安全のため必ずお守りください。

安全に正しくお使いいただくため、
ご使用前に必ず「取扱説明書」をお読みください。
お読みになったあとは、必要に応じていつでも読めるように
大切に保管してください。

●この「取扱説明書」では、本設備を安全にお使いいただくために、必ずお守りいただくことを ⚠警告 ⚠注意 にわけてお知らせしています。
あなたや他の人々への危害や物的損害を未然に防止するために、必ずお守りください。

⚠ 警 告　死亡または重傷を負う可能性がある状況を示す。

●人に向かって絶対に放射しないでください。
- ●危害発生の恐れがあります。

●消火薬剤貯蔵タンクにサビ・キズ・変形・キャップのゆるみのあるものは、絶対に使用しないでください。
- ●タンクの破裂等により、人身事故につながる恐れがあります。

⚠ 注 意　軽傷または中程度の障害、また物的損傷の発生のみが予測される状況を示す。

●火災時・点検時以外は、絶対に操作しないでください。

●火元に近すぎるとヤケドの恐れがあります。
- ●5m程度の距離をおいて消火してください。
- ●炎の大きさに惑わされず、火の根元をねらって消火してください。
- ●炎が小さくなるにつれて近づいてください。

●法で定められた点検を定期的に行ってください。

●ノズルをしっかりにぎって、放射してください。
- ●ノズルのコックをあけるときに反動があります。
ノズルをしっかりとにぎって、消火活動をしてください。

ホースの巻き方

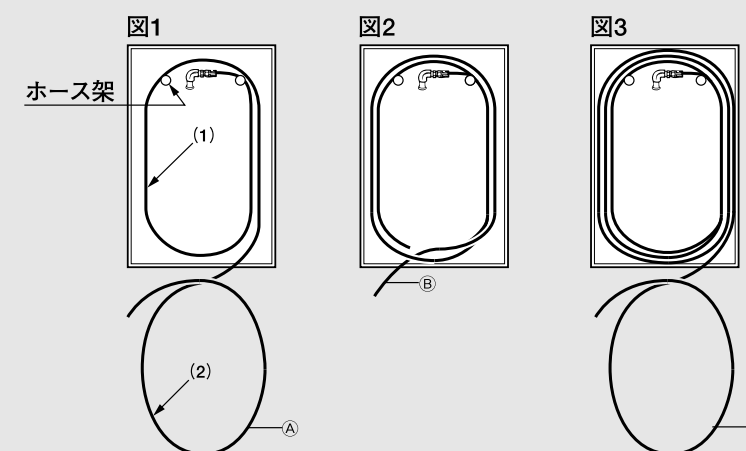
格納箱の中にラック式に巻きます。
使用の際、ホースがねじれないように引き伸ばせる巻き方を必要とします。
基本として8の字形に巻きます。
※ホースをあらかじめ直線状にのばした後、巻いてください。

（8の字巻きの方法）

[1]・最初の1巻きをホース架に架ける。（図1）
[2]・ホースを輪にしⒶ部をホース架に架ける。（図1→図2）
[3]・Ⓑ部をホース架に1巻きかけた後、ホースを輪にしⒸ部をホース架にかける。（図3）
[4]・[3]を繰り返す。

図1

図2

図3

火災の時すぐ使うために

⚠ 注 意

⚠試し放射(操作)はしないでください。

そのまま設置されますと[イザ!]というとき使用できません。

⚠放射後はすぐ消火薬剤を詰め替えてください。

一度放射されたら、消火薬剤の詰め替えとガス容器の交換が必要です。
*お求めになった販売店などの専門業者か、当社営業所に詰め替えを依頼してください。

⚠6ヵ月に1回以上の点検をしてください。

使用するときに100%の能力を発揮できるよう、また、長く効力を保持させるため、消防法施行規則第31条の6に基づき[6ヵ月に1回以上の点検]を、消防設備士などの資格を有する人に依頼して行ってください。

⚠ガス容器に衝撃を与えたり、ハンドルを開けたりしないでください。

ガス漏れの原因となり、使用できなくなります。

消火薬剤について

消火薬剤には、著しい毒性はありません。しかし大量に吸い込むと危険な場合がありますので、ご注意ください。

⚠ 注 意

⚠体にかかったときは水で洗い流してください。

消火薬剤が目に入ったり皮膚についたときは、すみやかに水道水で完全に洗い流してください。
衣類に付着したときも同様に水洗いしてください。なお、痛みが残るときは医師の診察を受けてください。

⚠放射後、または消火薬剤が付着したものはすぐに清掃してください。

放射後や、付着した消火薬剤をそのまま放置しておくと、しみが残ったり金属類を腐食させることがあります。すみやかに十分な水で洗い流し、きれいにふき取ってください。

⚠人に向けて放射しないでください。

⚠消火薬剤を故意に口に入れないでください。

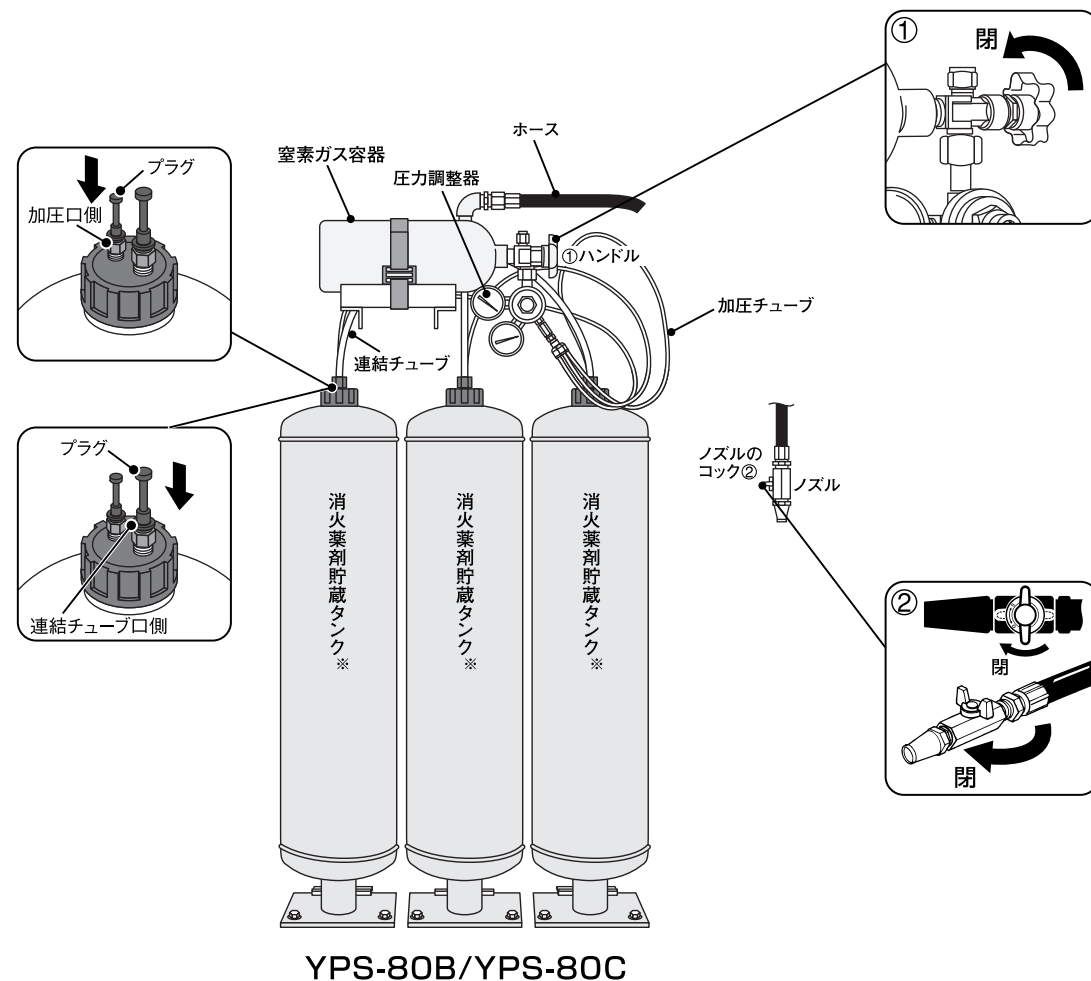
⚠消火薬剤がかかった食物は、絶対に食べないでください。

設置後の確認について

⚠ 注 意

⚠設置時に次のことを確認してください。

1・窒素ガス容器のハンドル①が閉じていることを確認してください。
2・ノズルのコック②が「閉」になっていることを確認してください。

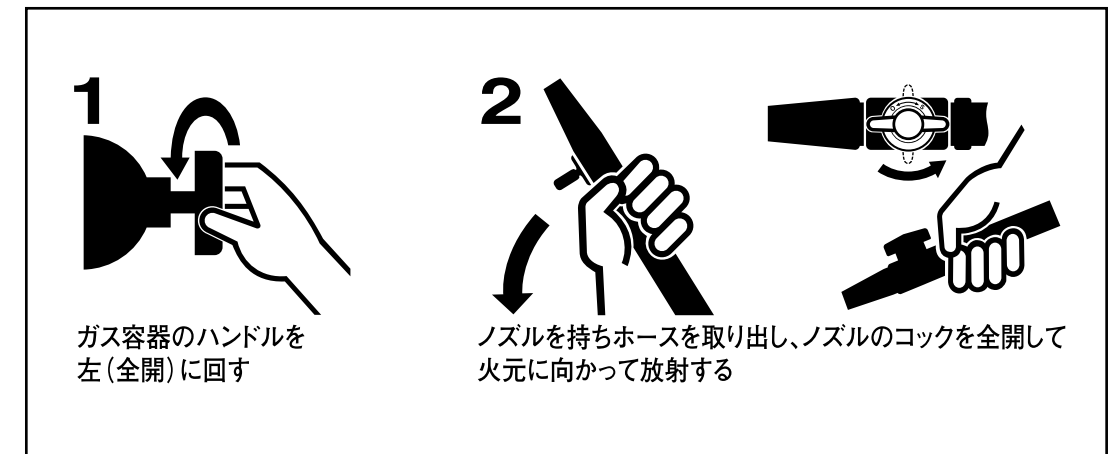
YPS-80B/YPS-80C

※設置後に格納箱から容器を取り外す場合は、消火薬剤がこぼれる恐れがありますので、必ず加圧チューブを取り外してから、
連結チューブを取り外し、共にプラグを取り付けてください。
また、再び設置する際には、組立要領書にしたがって設置してください。
※消火薬剤貯蔵タンクは共通です。左・右・中央の区別はありません。

操作方法について

⚠ 注 意

⚠銘板に書いてある使用方法に基づいて操作してください。

■使用方法

[1] ガス容器のハンドル①を左（全開）に回す。
[2] ノズルを持ちホースを取り出し、ノズルのコック②を全開して火元に向かって放射する。

⚠全量放射してください。

一度消火してもまた火がつく場合がありますので、消火薬剤は必ず全量放射してください。

使用後の処置について

⚠ 注 意

⚠ 消火後、必ずガスの元栓を締めてください。

ガスが関連した火災では、二次災害の恐れがあります。

⚠ 速やかに水でよく洗い流しきれいに拭き取ってください。

消火薬剤がかかった場所は、そのまま放置しておくと器物を汚損する場合があります。

⚠ 再充てんが必要です。

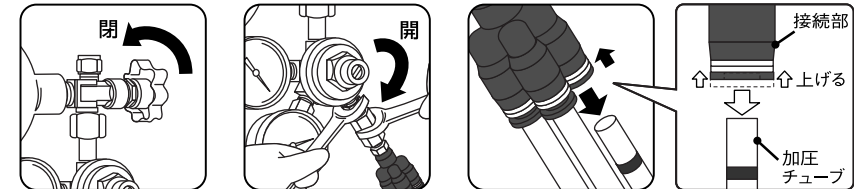
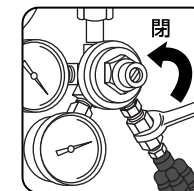
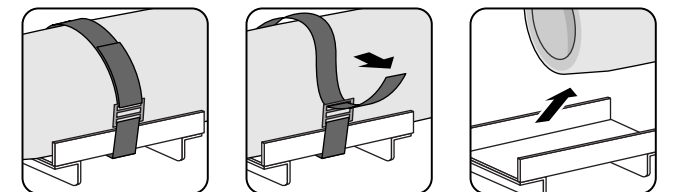
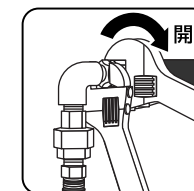
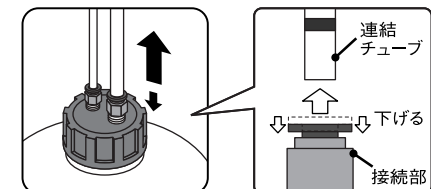
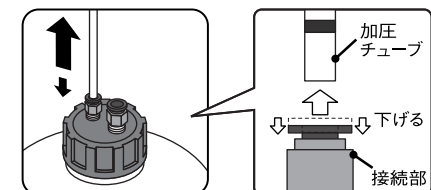
早急にお求めになった販売店か、当社営業所に詰め替えを依頼してください。

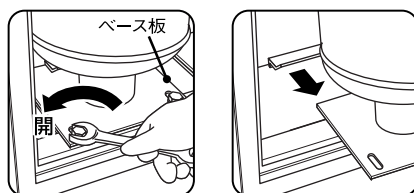
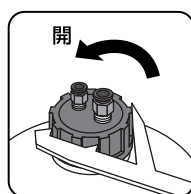
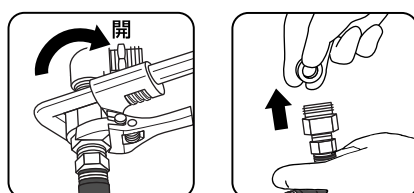
⚠ 再充てんを行う前の注意

（作図中のネジに関しての表現で、「開」は外す、「閉」は締める事を示します。（以下同））

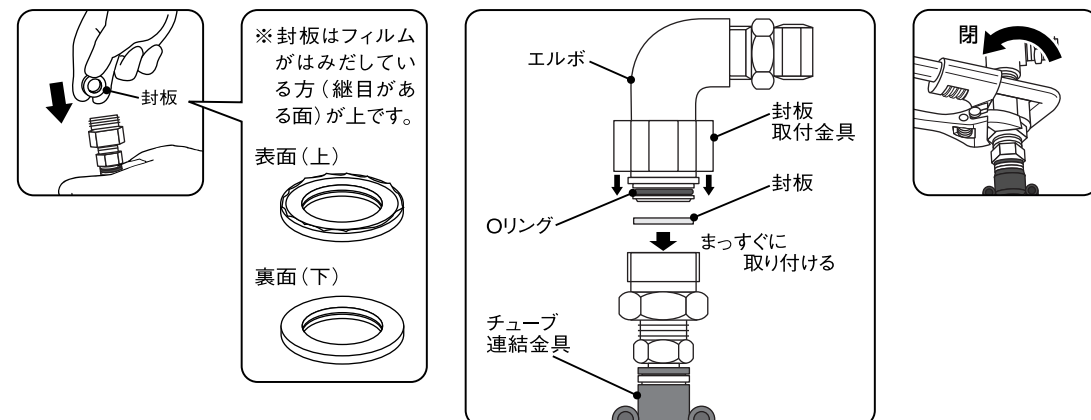
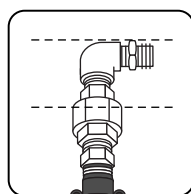
一度消火薬剤を放出した後は、消火薬剤の再充てんを行う前に、必ず次の処置を行ってください。
行わない場合は、次に使用したときに放射不能になることがあります。
再充てんは必ず有資格者によって行ってください。

1・パッケージ型消火設備の周囲の汚れを防ぐため、養生シート等を使ってください。

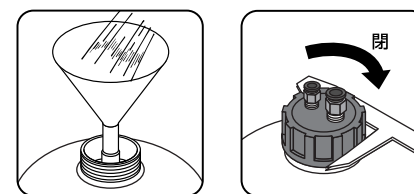
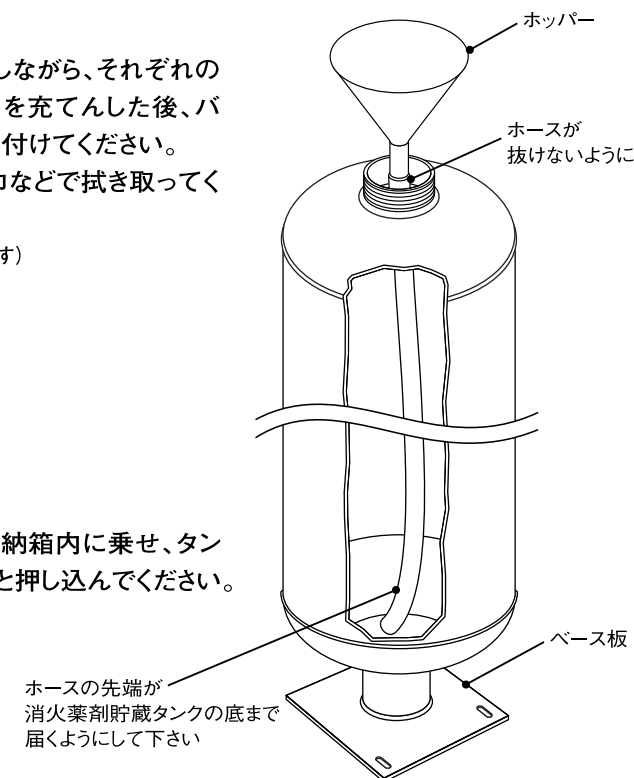
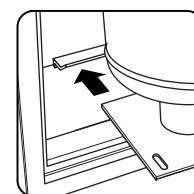
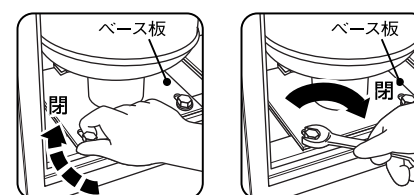
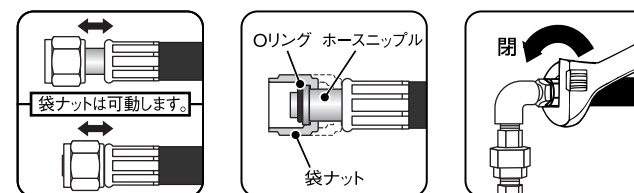
2・窒素ガス容器のハンドルを右に回して「閉」になっていることを確認し、圧力調整器の接続部をゆるめ、ガスの残っていないことを確かめてから加圧チューブを外してください。

3・ゆるめた圧力調整器の接続部を締め付けてください。

4・固定バンドを取り外してください。（固定バンドは面ファスナーですので、簡単に外せます）
窒素ガス容器を格納箱から取り出してください。

5・ホースを接続部から外し、格納箱から取り出してください。

6・連結チューブを左側・中央・右側消火薬剤貯蔵タンクの上部から外してください。

7・消火薬剤貯蔵タンクと加圧チューブの接続部を押し下げて、加圧チューブを外してください。

⚠再充てんを行う前の注意

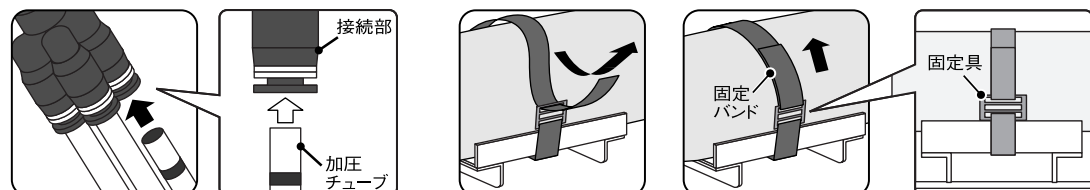
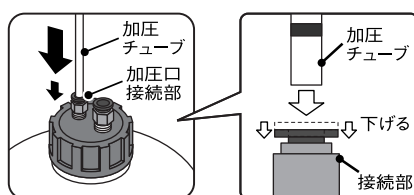
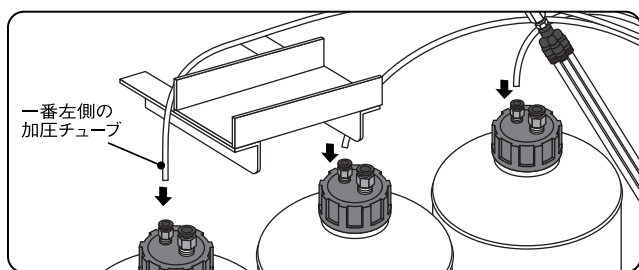
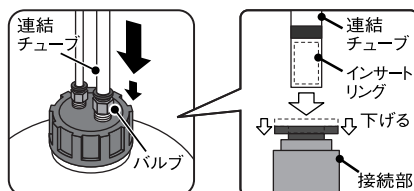
8・消火薬剤貯蔵タンクベース板のボルトを外し、消火薬剤貯蔵タンクを格納箱から取り出してください。

9・消火薬剤貯蔵タンク上部のバルブカバーを外してバルブを取り出し、タンク内の消火薬剤を残らず出してください。

10・チューブ連結金具の封板取付金具をはずし、封板を取り出してください。

11・消火薬剤貯蔵タンク、バルブ、ホース、ノズル、チューブ連結金具の内面と外面を十分水洗いし、よく乾燥させてください。

12・チューブ連結金具に新しい封板を入れてください。Oリングがはみ出さないように注意しながら、封板取付金具を取り付けてください。

（※封板には表裏がございます。下記の図を参考に間違わないように取り付けてください。）

13・封板取付金具をチューブ連結金具にエルボと平行になるように締め付けてください。

⚠再充てん

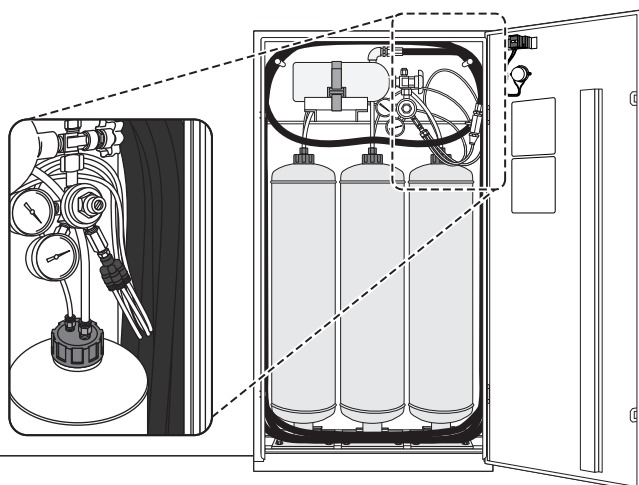
1・消火薬剤をこぼさないよう十分注意しながら、それぞれの容器に消火薬剤27L（13.5L×2缶）を充てんした後、バルブを取り付け、バルブカバーを締め付けてください。
消火薬剤がこぼれたときは、ぬれ雑巾などで拭き取ってください。

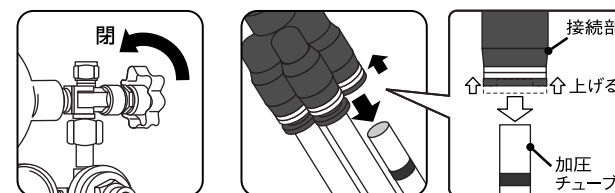
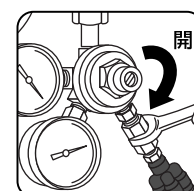
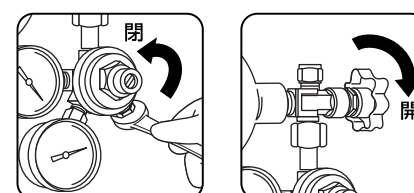
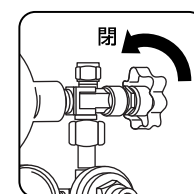
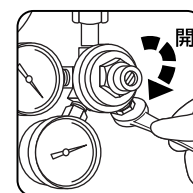
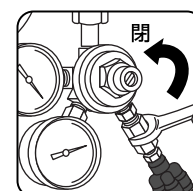
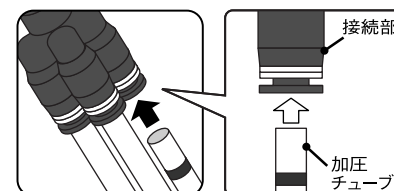
（※右記の充てん用ホッパーを使用すると便利です）

2・充てんした消火薬剤貯蔵タンクを格納箱内に乗せ、タンクのベース板を所定のツメにしっかりと押し込んでください。

3・消火薬剤貯蔵タンクのベース板の穴に格納箱のボルト穴を合わせて、ボルトを完全に締め、ベース板を固定してください。（中央に消火薬剤貯蔵タンクを固定後、右側・左側タンク［順番は逆でも可］を固定してください。）
※消火薬剤がこぼれたときは、ぬれ雑巾などで拭き取ってください。

4・ホースニップルにOリングのついていることを確認してください。ホース接続部に袋ナットを締め付け、手で緩まないことを確認してください。
※Oリングがついていないと漏れの原因となりますので、必ず確認してください。

再充てん

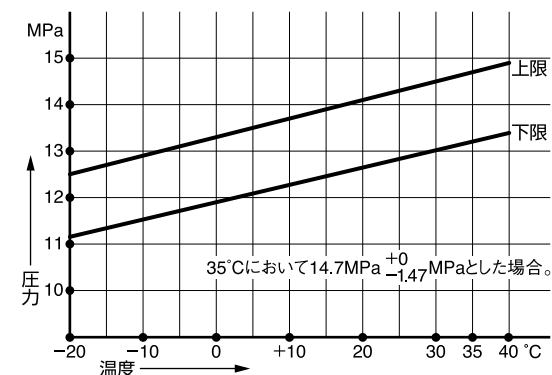
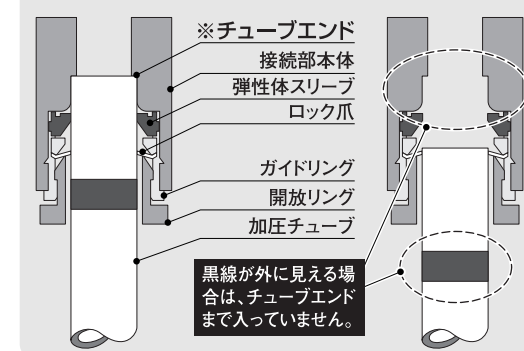
5・次に、空になった窒素ガス容器から圧力調整器を外し、新しい窒素ガス容器に取り替えて格納箱に納め、加圧チューブを圧力調整器の接続部に差し込んでください。（その際、必ずチューブエンド【※1・P12参照】まで差し込んでください。）
窒素ガス容器を固定バンドで固定してください。（その際は、固定具が下図のように正面になるように固定してください。）

6・先に加圧チューブを加圧口接続部に、きっちりと差し込んでください。（その際、必ずチューブエンド【※1・P12参照】まで差し込んでください。）
同じ手順で残り2本の加圧チューブも、加圧口接続部に取り付けてください。

注 意	3本の加圧チューブのうち、一番左側の加圧チューブは窒素ガス容器の後ろを通すと差し込みやすくなります。（右図参照）

7・次に連結チューブをバルブに、きっちりと差し込んでください。（その際、必ずチューブエンド【※1・P12参照】まで差し込んでください。）同じ手順で残り2本の連結チューブも、バルブ部分に取り付けてください。

注 意	連結チューブ先端の内部にインサートリングが入っている事を確認してから差し込んでください。

8・ホースを格納箱に収納してください。

注 意	加圧チューブはホースの後ろ側にセットしてください。

9・作業が終わったら、設置上の注意事項を確認してください。

窒素ガス容器の圧力測定方法

[1] 窒素ガス容器のハンドルを右に回して「閉」になっていることを確認し、加圧チューブを外してください。

[2] 圧力調整器の接続部を外してください。

[3] 接続部分に、付属のキャップを取り付けた後、窒素ガス容器のハンドルを左「開」に回し、圧力調整器の一次側及び二次側の圧力を測定します。

[4] ハンドルを右「閉」に回して閉じます。ハンドルを閉じた後に、2次側の圧力計の針が下がっていく場合には接続部等に漏れがあります。締め直しを行ってください。

[5] キャップを少しゆるめて窒素の残ガスを放出します。

[6] 圧力調整器の一次側及び二次側の圧力が「0」になったことを確認後、キャップを外し圧力調整器の接続部を取り付けます。

[7] 加圧チューブを圧力調整器の接続部に差し込んでください。（その際、必ずチューブエンド【※1下記参照】まで差し込んでください。）

[8] 圧力測定の終了後は、各バルブの設置上の注意事項を確認してください。

●加圧用窒素ガス容器内圧力と温度の関係グラフ

※1 圧力調整器の接続部構造図

■仕様

商品記号		YPS-80B	YPS-80C
商品名		パッケージ1（one）	パッケージ1（one）
型式記号		YPS-80E	YPS-80D
認定番号		PG-038号	PG-039号
種別		パッケージ型消火設備Ⅰ型	パッケージ型消火設備Ⅰ型
消火薬剤種別		第三種浸潤剤等入り水	第三種浸潤剤等入り水
消火薬剤鑑定型式番号		鑑剤第14～1号	鑑剤第19～2号
加圧用ガス容器		N_2 ガス 3.4 L	N_2 ガス 3.4 L
窒素ガス容器弁型式番号		よ-001-1号	よ-001-1号
調整圧力		0.8 MPa（±0.05 MPa）	0.8 MPa（±0.05 MPa）
全装備質量		約203kg	約200kg
消火薬剤容（質）量		81 L（約100.7kg）	81 L（約98.1kg）
使用温度範囲		－20˚C～＋40˚C	－10˚C～＋40˚C
性能	放射時間	約190秒　（20˚C）	約180秒　（20˚C）
	放射距離	13m～15m（20˚C）	13m～15m（20˚C）
	放射量	23L/min　（20˚C）	25L/min　（20˚C）
消火薬剤貯蔵タンク		内容積85.5L（28.5L×3本）	内容積85.5L（28.5L×3本）
ホース		ϕ21（外径）×ϕ12.7（内径）×25m	ϕ21（外径）×ϕ12.7（内径）×25m
ノズル開閉弁		ボールバルブ	ボールバルブ

MEMO